

- 2 - 2 放射線業務従事者の線量管理の状況

- (1) 原子炉設置者等は、原子炉等規制法に基づき原子炉施設における放射線業務に従事する者の線量が同法に基づく告示に定める線量限度を超えないように管理することが義務づけられている。

2007年度の原子力施設における放射線業務従事者の線量は、全ての事業所において、この線量限度を下回っている。

放射線業務従事者の線量限度：ICRPの1990年勧告を受けて関係法令を改正し、2001年度から放射線業務従事者の線量限度は、5年間につき100ミリシーベルト及び1年間につき50ミリシーベルト。

(女子(実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第9条第2項他に規定する女子)については前述の規定のほか3月間につき5ミリシーベルト)

- (2) 2007年度における線量管理の状況は以下のとおり。

実用発電用原子炉施設における2007年度の放射線業務従事者は、のべ人数で約73,000人(前年度約66,900人)、総線量は78.18人・シーベルト(前年度67.43人・シーベルト)であった。また、放射線業務従事者一人当たりの平均線量は1.1ミリシーベルト(前年度1.0ミリシーベルト)であった。

研究開発段階にある発電の用に供する原子炉施設のうち、(独)日本原子力研究開発機構 原子炉廃止措置研究開発センターにおける放射線業務従事者一人当たりの平均線量は0.2ミリシーベルト(前年度0.3ミリシーベルト)、(独)日本原子力研究開発機構 高速増殖原型炉もんじゅにおける放射線業務従事者一人当たりの平均線量は0.0ミリシーベルト(前年度0.0ミリシーベルト)であった。

また、(独)日本原子力研究開発機構 原子炉廃止措置研究開発センターにおける放射線業務従事者の総線量は0.09人・シーベルト(前年度0.20人・シーベルト)、(独)日本原子力研究開発機構 高速増殖原型炉もんじゅにおける放射線業務従事者の総線量は0.00人・シーベルト(前年度0.00人・シーベルト)であった。

加工施設各事業所における放射線業務従事者一人当たりの平均線量は、最大の事業所で0.2ミリシーベルト(前年度0.3ミリシーベルト)であった。

また、加工施設各事業所における放射線業務従事者の総線量は、最大の事業所で0.10人・シーベルト(前年度0.10人・シーベルト)であった。

再処理施設各事業所における放射線業務従事者一人当たりの平均線量は、最大の施設で0.2ミリシーベルト(前年度0.1ミリシーベルト)であった。

また、再処理施設各事業所における放射線業務従事者の総線量は、最大の施設で1.05人・シーベルト(前年度0.21人・シーベルト)であった。

廃棄物埋設施設及び廃棄物管理施設の各事業所における放射線業務従事者一人当たりの平均線量は、施設の最大で0.0ミリシーベルト(前年度0.0ミリシーベルト)であった。

また、廃棄物埋設施設及び廃棄物管理施設の各事業所における放射線業務従事者の総線量は、施設の最大で0.01人・シーベルト(前年度0.01人・シーベルト)であった。

2006年4月1日を始期とする5年間につき100ミリシーベルトとする線量限度が規定されており、2007年度末において、この線量限度を超えた放射線業務従事者はいなかった。

(3) 原子力施設における放射線業務従事者の線量管理は、個々の施設ごとに実施している。従って、放射線業務従事者が複数の原子力事業所を移動した場合であっても、他の原子力事業所での被ばくの経歴を認識し、的確な放射線管理が行われている。

また、(財)放射線影響協会 放射線従事者中央登録センターが、放射線業務従事者の被ばく線量の一元的登録管理及び記録の保管を行っている。

(4) 2007 年度における放射線業務従事者の線量分布（放射線被ばくの経歴を含めた被ばく線量の状況を含む。）及び女子（実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第 9 条第 2 項他に規定する女子）の放射線業務従事者の四半期ごとの線量分布を示した。

また、1998 年度以降の各年度の原子力施設における放射線業務従事者の線量を参考資料に示した。

表の見方は次のとおりである。

放射線業務従事者の「総合計」については、原子力施設間を移動した放射線業務従事者についてそれぞれの原子力施設で集計しているため、重複して集計されている。

「総線量」については、「社員」「その他」それぞれの項目について小数点以下第 3 位を四捨五入して集計した。したがって、一部で「社員」の項と「その他」の項との和が「合計」と一致しないものがあるが、これは集計上の誤差である。

「平均線量」については、小数点以下第 2 位を四捨五入して集計した。

「最大線量」については、当該原子力施設においての実績である。

放射線業務従事者及び線量の集計は、管理区域が設定された時点から集計している。

日本原子力発電（株）東海発電所及び東海第二発電所において両発電所を兼務する放射線業務従事者の線量は、フィルムバッチで評価された線量を両発電所における電子式線量計の計測値の比率を用い分配して集計した。（1999 年度分まで）

原子炉等規制法に規定する「使用施設」を有する事業所については、「使用施設」での放射線業務従事者と一部重複して計上している。